

令和6年度中央畜産技術研修会実施計画

※末尾の注意書きを参照のこと

No	講座名	副題	日程	日数	講義内容の概要（項目）	募集人数	受講対象者
1	畜産行政 （総合）	畜産行政推進の 基礎知識のため に	5/28(火) ～ 5/30(木)	3	◇畜産行政をめぐる情勢 ◇会計検査制度 ◇食品衛生と畜産物の安全性 ◇マスコミから見た畜産行政 ◇アニマルウェルフェアの現状 ◇畜産クラスター事業 ◇JGAPの状況 ◇飼料をめぐる情勢 ◇課題討論	40	国、地方公共団体、畜産関係団体又は農協等生産者団体等職員で当該関連分野（行政職務）に配属されて原則5年程度の者、農業に従事する者
2	新任畜産技術職員（1） （基礎）	畜産技術者としての基礎知識のために	6/5(水) ～ 6/7(金)	3	◇畜産各分野の基礎知識《▽酪農▽肉用牛▽養豚・養鶏・特用畜産▽飼料▽畜産環境保全▽家畜衛生▽JGAP▽アニマルウェルフェア▽牛トレーサビリティ制度》 ◇畜産関係主要法令 ◇課題討論 ◇現地研修	40	国、地方公共団体、畜産関係団体又は農協等生産者団体等の職員で畜産職域に配属されて原則3年以内の者、農業に従事する者
3	肉用牛生産技術指導者養成（1） （専門）	効率的生産技術の指導者育成確保のために	6/17(月) ～ 6/21(金)	5	◇肉用牛をめぐる情勢 ◇受精卵移植・雌雄判別技術 ◇肉質評価技術 ◇繁殖牛の管理技術 ◇哺乳子牛の生理と飼養管理 ◇改良と登録の実務 ◇肉用牛審査実習 ◇肉用牛の経営管理	20	国、地方公共団体、畜産関係団体又は農協等生産者団体等の職員で当該関連技術の指導を担当する分野に配属された者であって肉用牛の基本的な体型測定を1年以上経験したことがある者、又は肉用牛経営に従事する者

No	講座名	副題	日程	日数	講義内容の概要（項目）	募集人数	受講対象者
4	放牧 （専門）	放牧の推進のために	6/25(火) ～ 6/28(金)	4	<ul style="list-style-type: none"> ◇放牧をめぐる情勢 ◇放牧草地の更新 ◇放牧牛の衛生管理 ◇鳥獣害対策 ◇放牧の推進 ◇放牧の実務 ◇高張力線牧柵・簡易電気牧柵の設置実習 ◇放牧管理技術 ◇経営視点から見た放牧技術 ◇総合討論 	20	国、地方公共団体、畜産関係団体又は農協等生産者団体等の職員で当該分野に配属されて原則5年以内の者、農業に従事する者
5	食肉流通 （専門）	食肉流通を取り巻く諸状況の認識のために	7/2(火) ～ 7/5(金)	4	<ul style="list-style-type: none"> ◇基礎知識（食肉流通・表示・食肉加工・畜産副産物・食鳥流通） ◇食肉処理施設をめぐる情勢 ◇食肉流通と関係法規 ◇食肉の格付け ◇食肉品質評価 ◇食肉衛生（学・行政）概論 ◇生産段階における衛生管理 ◇牛肉輸出の取組 	40	国、地方公共団体、畜産関係団体、農協等生産者団体等の職員又は食肉流通の安全・衛生に係る指導を行う食肉の処理・加工・流通事業者の職員で当該分野に配属されて原則5年以内の者、農業に従事する者
6	新任畜産技術職員（2） （基礎）	畜産技術者としての基礎知識のために	9/18(水) ～ 9/20(金)	3	<ul style="list-style-type: none"> ◇畜産各分野の基礎知識《▽酪農▽肉用牛▽養豚・養鶏・特用畜産▽飼料▽畜産環境保全▽家畜衛生▽J G A P▽アニマルウェルフェア▽牛トレーサビリティ制度》 ◇畜産関係主要法令 ◇課題討論 ◇現地研修 	40	国、地方公共団体、畜産関係団体又は農協等生産者団体等の職員で畜産職域に配属されて原則3年以内の者、農業に従事する者

No	講座名	副題	日程	日数	講義内容の概要（項目）	募集人数	受講対象者
7	畜産環境保全 (<u>耕畜連携、堆肥利用促進</u>) (専門)	堆肥施用コーディネーターの養成のために	9/25(水) ～ 9/27(金)	3	<ul style="list-style-type: none"> ◇畜産環境をめぐる情勢 ◇肥料の品質の確保等に関する法律 ◇<u>耕畜連携における堆肥利用の経済性と組織対応</u> ◇<u>利用者ニーズを意識した堆肥生産・流通</u> ◇<u>野菜作における堆肥施用のポイント</u> ◇<u>家畜ふん堆肥の施用法と肥料原料化</u> ◇<u>地域における堆肥の循環利用の促進</u> ◇<u>水田作における堆肥施用の基本と現場利用</u> ◇<u>総合討議</u> 	20	国、地方公共団体、畜産関係団体、耕種作物関係団体又は農協等生産者団体等の職員、農業に従事する者
8	肉用牛生産技術指導者養成 (2) (専門)	効率的生産技術の指導者育成確保のために	9/30(月) ～ 10/4(金)	5	<ul style="list-style-type: none"> ◇肉用牛をめぐる情勢 ◇受精卵移植・雌雄判別技術 ◇肉質評価技術 ◇繁殖牛の管理技術 ◇哺乳子牛の生理と飼養管理 ◇改良と登録の実務 ◇肉用牛審査実習 ◇肉用牛の経営管理 	20	国、地方公共団体、畜産関係団体又は農協等生産者団体等の職員で当該関連技術の指導を担当する分野に配属された者であって肉用牛の基本的な体型測定を1年以上経験したことがある者、又は肉用牛経営に従事する者
9	新任畜産技術職員(3) (基礎)	畜産技術者としての基礎知識のために	10/16(水) ～ 10/18(金)	3	<ul style="list-style-type: none"> ◇畜産各分野の基礎知識《▽酪農▽肉用牛▽養豚・養鶏・特用畜産▽飼料▽畜産環境保全▽家畜衛生▽J G A P▽アニマルウェルフェア▽牛トレーサビリティ制度》 ◇畜産関係主要法令 ◇課題討論 ◇現地研修 	40	国、地方公共団体、畜産関係団体又は農協等生産者団体等の職員で畜産職域に配属されて原則3年以内の者、農業に従事する者

No	講座名	副題	日程	日数	講義内容の概要（項目）	募集人数	受講対象者
10	畜産環境保全 (堆肥化処理、 利用技術) (専門)	畜産環境を取り 巻く諸状況の認 識のために	10/21(月) ～ 10/25(金)	5	◇畜産環境をめぐる情勢 ◇肥料の品質の確保等に関する法律 ◇堆肥化処理の原理と発酵に必要な条件 ◇各種堆肥化施設・攪拌移送機 ◇堆肥化処理施設の設計・維持管理数値・ランニングコストの計算法及び演習 ◇堆肥の利用促進・耕畜連携 ◇堆肥の利用促進 ◇堆肥の適正使用量算出法	40	国、地方公共団体又は畜産関係団体等の職員、農業に従事する者
11	養鶏 (基礎) 【隔年開催】	養鶏を取り巻く 諸状況の認識の ために	10/29(火) ～ 11/1(金)	4	◇鶏卵・鶏肉の生産・流通 ◇生産に係る施設整備 ◇JGAPの状況について ◇疾病対策◇家禽防疫・予防 ◇ブロイラー産業と鶏肉生産 ◇素ヒナ生産と鶏卵 ◇国産鶏の改良普及・技術開発 ◇卵の加工成分と機能成分の利用 ◇消費者ニーズと商品戦略 ◇アニマルウェルフェアの現状 等	40	国、地方公共団体及び畜産関係団体の職員で当該分野に配属されて原則5年以内の者、農業に従事する者
12	畜産統計処理 (基礎)	畜産統計処理の 修得のために	11/11(月) ～ 11/15(金)	5	◇基礎統計学 ◇パソコンによる統計処理・演習問題 等	40	国、地方公共団体、畜産関係団体又は農協等生産者団体等の職員で畜産関連データの収集・分析に携わっており、日常的に表計算ソフトを利用している者。なお、別途開催の「統計遺伝育種学研修【専門】」受講に際し、本研修を事前に受講されることが望ましい。

No	講座名	副題	日程	日数	講義内容の概要（項目）	募集人数	受講対象者
13	酪農 (基礎)	酪農を取り巻く諸状況の認識のために	11/18(月) ～ 11/22(金)	5	<ul style="list-style-type: none"> ◇牛乳・乳製品及び貿易交渉の情勢 ◇HACCP・JGAP認証 ◇<u>乳用牛のベストパフォーマンス実現のために</u> ◇乳牛改良の動向 ◇酪農ヘルパーを巡る情勢 ◇<u>アニマルウェルフェアの現状</u> ◇<u>自動搾乳システムでの乳牛行動に適した飼養管理および施設計画</u> ◇<u>自給飼料生産用機械の最新動向</u> ◇<u>疾病予防対策</u> ◇<u>牛群検定と農家指導</u> ◇牛から学ぶ牛の管理 ◇課題討論 ◇現地研修 	40	国、地方公共団体、畜産関係団体又は農協等生産者団体等の職員で、当該分野に配属されて原則5年以内の者、農業に従事する者
14	畜産新技術 (総合)	繁殖技術の向上及び畜産関係新技術に係る諸状況の認識のために	11/26(火) ～ 11/29(金)	4	<ul style="list-style-type: none"> ◇新技術の動向 ◇スマート農業推進 ◇搾乳ロボット情報 ◇DNA解析を利用した育種改良 ◇家畜育種新技術の活用・改良形質 ◇ゲノム編集と倫理 ◇代謝プロファイルテストを用いた繁殖性改善 ◇ベンチマーキングによる経営分析 ◇受精卵移植・雌雄判別の現状 ◇精密分娩・繁殖管理 ◇排せつ物の栄養生理学的制御技術 ◇産業動物のアニマルウェルフェアの現状と課題 ◇現地研修 	40	国、地方公共団体、畜産関係団体又は農協等生産者団体等の職員で当該技術分野に配属された者又は関連業務の経験のある者、農業に従事する者

No	講座名	副題	日程	日数	講義内容の概要（項目）	募集人数	受講対象者
15	新規就農指導員養成 (基礎)	新規就農を総合的にサポートできる指導者養成のために	12/2(月) ～ 12/5(木)	4	<ul style="list-style-type: none"> ◇畜産をめぐる情勢 ◇新規就農及び担い手対策 ◇家畜衛生の現状 ◇就農のための資金計画 ◇農業経営・畜産経営の特徴とその経営指導手法 ◇子牛の衛生管理技術および飼養管理 ◇総合討論 ◇現地実習 	20	国、地方公共団体、畜産関係団体又は農協等生産者団体等の職員で当該部門の指導に携わる初任指導職員、農業に従事する者
16	肉用牛 (基礎)	肉用牛を取り巻く諸状況の認識のために	12/10(火) ～ 12/13(金)	4	<ul style="list-style-type: none"> ◇肉用牛改良の情勢 ◇アニマルウェルフェアの現状 ◇肉用牛農場におけるJGAPの取組 ◇一貫経営 ◇肉用牛のブランド化 ◇和牛の肉質と輸出拡大 ◇肉用牛育種改良 ◇子牛の健康と生産性向上 ◇肉用牛の放牧管理 ◇和牛遺伝資源と改良 ◇牛肉流通 ◇牛疾病対策と農場HACCP ◇課題討論 	40	国、地方公共団体、畜産関係団体又は農協等生産者団体等の職員で当該分野に配属されて原則5年以内の者、農業に従事する者
17	国産飼料 (専門)	国産飼料を取り巻く諸状況の認識のために	1/15(水) ～ 1/17(金)	3	<ul style="list-style-type: none"> ◇飼料をめぐる情勢 ◇公共牧場の運営改善技術 ◇飼料作物（飼料用とうもろこし、牧草・飼料用麦、稲WCS・飼料用米）の栽培技術 ◇TMRセンターの現状・課題・展開 ◇飼料生産関係の農業機械 ◇飼料作物の品種 ◇自給飼料の加工調整技術 ◇総合討論 	40	国、地方公共団体、畜産関係団体、耕種作物関係団体又は農協等生産者団体等の職員で当該分野に配属されて原則5年以内の者、農業に従事する者

No	講座名	副題	日程	日数	講義内容の概要（項目）	募集 人数	受講対象者
18	統計遺伝育種学 （専門） 【隔年開催】	家畜育種理論の 修得のために	1/20(月) ～ 1/24(金)	5	◇家畜育種の概論 ◇ゲノム情報を利用した家畜育種の概論 ◇演習（BLUPF90ソフトウェア等を用いて）	40	畜産関連データの収集・分析に携わっており日常的に表計算ソフトを利用している者。なお、「畜産統計処理研修【基礎】」を事前に受講されていることが望ましい
19	流通飼料 （専門）	飼料を取り巻く 諸状況の認識及 び食品残さの飼 料化を推進する ために	1/28(火) ～ 1/31(金)	4	◇流通飼料をめぐる現状と課題 ◇飼料の安全確保 ◇エコフィードをめぐる現状と課題 ◇高付加価値畜産物の生産と飼料 ◇高付加価値牛肉の生産と飼料 ◇飼料給与と栄養 ◇飼料設計の基本 ◇ <u>食品残さ等飼料化技術</u> ◇ <u>食品残さ利用の養豚農場実践事例</u> ◇給与飼料と家畜への影響 ◇課題討論	40	国、地方公共団体、畜産関係団体又は農協等生産者団体等の職員で当該分野に配属されて原則5年以内の者、農業に従事する者
20	畜産環境保全 （畜舎污水处理 技術） （専門）	畜産環境を取り 巻く諸状況の認 識のために	2/3(月) ～ 2/7(金)	5	◇水環境行政の動向 ◇畜産環境をめぐる情勢 ◇ <u>污水处理技術の基本</u> ◇ <u>活性汚泥法・污水处理技術の原理</u> ◇污水处理施設の設計・審査・維持管理に関する計算・演習 ◇脱窒・硝化処理活性汚泥法・膜分離活性汚泥法	40	国、地方公共団体、畜産関係団体又は農協等生産者団体等の職員、農業に従事する者
21	養蜂 （専門） 【隔年開催】	養蜂現場で必要 な知識の普及の ために	2/12(水) ～ 2/14(金)	3	◇養蜂をめぐる情勢 ◇花粉交配用昆虫をめぐる情勢 ◇養蜂における農薬被害対策 ◇蜜蜂の飼養と疾病対策 ◇養蜂における蜜源植物の知識と重要性 ◇課題討論 等	40	国、地方公共団体又は畜産関係団体の職員で養蜂関連分野に配属されて原則5年程度の者、養蜂業等に従事する者

No	講座名	副題	日程	日数	講義内容の概要（項目）	募集人数	受講対象者
22	畜産経営 （基礎） 【隔年開催】	経営診断、簿記 を通した畜産経 営の見方	2/17(月) ～ 2/21(金)	5	◇畜産経営の会計システム・簿記技術・演習 ◇農業経営・畜産経営の特徴・経営診断手 法・診断実習 ◇外部・内部環境分析及びマーケティング重 視の経営診断 ◇これからの肉用牛の畜産経営	30	畜産職域に配属された国、地方公共 団体又は畜産関係団体の職員、畜産 経営診断や簿記の基礎知識がある 者、農業に従事する者

(注)

1 当研修会講座のうち①畜産物安全行政 ②畜産環境保全（臭気対策）③畜産経営 ④統計遺伝育種学 ⑤養豚 ⑥養鶏 ⑦養蜂 は、隔年で開催予定。

令和6年度は ③畜産経営 ④統計遺伝育種学 ⑥養鶏 ⑦養蜂 を予定。

2 「講義内容の概要（項目）」における下線部の講義は、農業従事者が出席することに適した内容。（特定の講義のみの聴講申込みも可）